

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	西淀川区
学校名	大阪市立御幣島小学校
学校長名	日野 善文

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・御幣島小学校では、第6学年 62名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本年度の平均正答率は、次の通りであった。国語科、算数科とともに、大阪市平均、全国平均を下回っていた。

【国語】63%（大阪市65%、全国66.8%）

【算数】52%（大阪市58%、全国58%）

【理科】56%（大阪市55%、全国57.1%）

国語科は、大阪市平均を2ポイント、全国平均を3.8ポイント、算数科は、大阪市平均を6ポイント、全国平均を6ポイント下回っていた。また、理科は大阪市平均を1ポイント上回っていたが全国平均では1.1ポイント下回っていた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

領域別の平均正答率では、〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕の領域で、全国・大阪市平均ともに上回っていた。昨年度は3ポイント程度下回っていた領域であるが今年度は2.7ポイントほど上回っている。しかし、他の3領域では、全国平均・大阪市平均を下回る結果となった。その中でも〔情報の扱い方に関する事項〕は、9ポイントも下回っており、「情報を選び、分析する力」や「情報を的確に評価・表現する力」を、日々の学習で育成していきたい。大阪市の学校支援事業を活用した漢字検定にも取り組み、更なる言語力の定着を図っている。

〔算数〕

各領域別の平均正答率では、すべての領域で、全国・大阪市平均とともに下回っていた。特に〔測定〕では、大阪市平均を8ポイント、全国平均を9ポイント下回っていた。問題を図式化し、その関係性を把握したり、自分の考えを表現したりする学習を取り入れる授業づくりを行うことが大切である。

〔理科〕

「「生命」を柱とする領域」に関しては全国・大阪市平均ともに上回っていた。またほかの3領域「「エネルギー」を柱とする領域」「「粒子」を柱とする領域」「「地球」を柱とする領域」では大阪市平均を上回った。普段から本物に触れたり、実験を通して理解したりできる授業に取り組んでいる結果であると考える。

質問調査より

児童質問紙では、〔自分には、よいところがあると思いますか〕についての最も肯定的な回答は、全国平均10.3ポイント、大阪市平均6.9ポイント上回っていた。様々な学校行事や児童会活動での高学年としての自覚を持ったがんばりが光っており、自尊感情が育まれていていると考える。また、〔学校に行くのは楽しいと思いますか〕については大阪市平均を1.3ポイント（全国平均では-0.1）、〔いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか〕については大阪市平均を0.1ポイント（全国平均では-0.6）上回っていた。

また、〔学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができますか〕については、昨年度の課題であったが大阪市平均より3.6ポイント、全国平均より1.4+87ポイント上回る結果となった。各教科において、話し合い活動を積極的に取り入れた成果である。

今後の取組(アクションプラン)

今年度は、算数科を研究教科とし、スクールアドバイザーの助言指導を受けながら授業研究を進めていく、若手教員を中心とした授業力の向上と授業改善に取り組んでいく。また、発達段階や個別の理解度に応じた習熟度別・少人数指導などに取り組み、授業形態を工夫する。また、算数科だけでなく他教科でも「話し合い活動」に力を入れ、課題改善がみられてきたペアやグループでの協同的な学習のよりよい進め方をさらに検討し、「主体的・対話的で深い学びの推進」していく、自ら学び考える児童の育成に努める。ITC機器の積極的な活用も進めることで、児童にとってよりわかりやすい授業をめざしていく。

また、デジタル機器に依存しすぎないよう地域や保護者との連携を大切にしながら、スマホやパソコン、ゲーム機器などの家庭での使い方の啓発を行っていく。